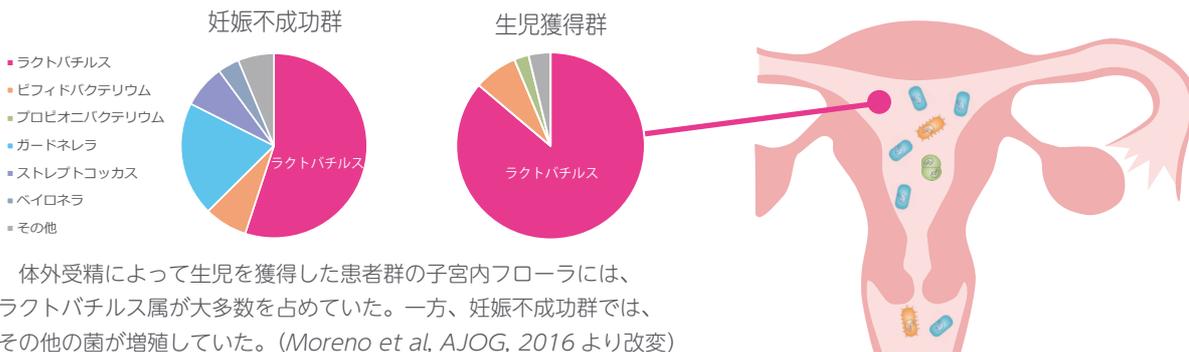


子宮内フローラ（子宮内細菌叢）とは

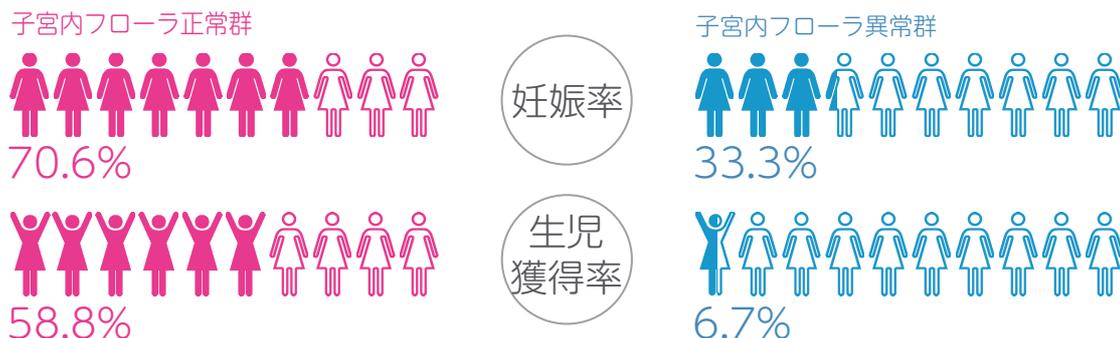
生殖器内は外気に触れる皮膚と同じように、様々な細菌が共存したフローラ（細菌の集合体）を作っています。腔内に存在する善玉菌（ラクトバチルス属）は、ウイルス感染や他の菌が増殖できない環境を作ることによって、胎児を感染症から守る役割をしていることが知られています。

一方、子宮内はこれまで無菌だと考えられていました。2015年に米国ラトガース大学の研究者らが子宮内にも善玉菌が存在することを見つけ、2016年には米国スタンフォード大学のサイモン博士らが、子宮内フローラが乱れていると体外受精の結果が悪くなることを発見しました。子宮内フローラが乱れ雑菌が増えると、子宮内膜で免疫が活性化し、受精胚を異物として攻撃してしまう可能性が指摘されています。

子宮内にはラクトバチルスが存在



子宮内ラクトバチルスの妊娠・出産への影響



スペインのIVI Valencia クリニックにて、体外受精を実施している35人の不妊治療患者を対象に子宮内フローラを調べ、ラクトバチルス率が90%以上と未満の2群で、妊娠や出産に影響を与えるかどうかを調べた結果。(Moreno et al, AJOG, 2016 より改変)

子宮内フローラ検査により期待されること

検査の対象となる方

「子宮内フローラ検査」により分かること

子宮内フローラの改善により期待されること

妊活・不妊治療中
(人工授精・体外受精など)

不妊の原因予測

着床率・妊娠率の向上

妊娠中

早産リスクの可能性

早産予防

婦人科疾患・おりもの異常など

子宮内・腔内での細菌性疾患の可能性

症状の改善

【注意】この検査は、診断を行うものではありません。